

令和元年度 大阪成蹊女子高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- ① 本学園の建学の精神である「桃李不言下自成蹊」、「忠恕」の精神に基づき、「思いやりがあり、誠を尽くし人の立場にたって考え行動できる人材」、また社会に求められる「自立し、品格ある女性」を育成する学校（女子教育の推進）
- ② 女子に特化したキャリア教育を教育の柱として、女性として自主的に生きる力を育み、人間力を高めるために必要な資質や能力を育てる学校（キャリア教育の推進と人間力の育成）
- ③ グローバル社会に求められる多文化共生のマインドと必要な能力を育むとともに、確かな学力と「使える英語力」の向上を図る学校（国際教育・英語教育の推進）
- ④ 普通科の「キャリア進学コース」、「幼児教育コース」、「スポーツコース」、「キャリア特進コース」と美術科の「アート・イラスト・アニメーションコース」に加えて、令和2年度開設予定の「音楽コース」を合わせた特色ある6コースの教育内容を高め、生徒のニーズに応える生徒の夢を実現できる学校（多様なコースで夢を実現）
- ⑤ 共生の観点を基本として、他者を敬い、自己を肯定できる豊かな人権感覚を育むとともに、いじめのない安全で安心な学校（人権教育の推進、安全で安心な学校）

2 中期的目標

1. 学力の向上と学校教育力の強化

- ① コースの学びの充実とアクティブラーニングを取り入れた学力向上
各コースの特性に応じた社会のニーズに応える新たな教育力の向上をめざす。また、日々の教科指導にアクティブラーニングを取り入れ、生徒の学びの質的な向上に努める。また、指導法の改善により「わかる授業」の実践に努める。
- ② グローバルなキャリア教育の推進とユネスコ活動
グローバル教育の観点を取り入れた「グローバルなキャリア教育」を推進する。キャリア科目の「グローバルスタディ」での机上学習の充実に加えて、海外修学旅行や海外研修などで実践的に学ぶ。キャリア進学コースアドバンス英語レーンの設置にともない、短期・中期の海外留学を促進する。また、生徒のグローバルな活動としてユネスコスクール活動の更なる充実をめざす。
- ③ 使える英語教育の推進
4技能を中心に、英語教育の充実を学園の教育方針と合わせて強化する。とりわけ、リスニング・スピーキングを重視する「使える英語」の育成を進める。
- ④ 各種検定の合格をめざす実学教育の充実
3ヵ年の教育目標の達成に向けた各教科の取り組みを計画的に進め、生徒の達成感を育む漢字検定・GTEC(英語検定)・秘書検定等の合格率や到達度の成果を高める。
- ⑤ ICT機器の活用
全教室に設置したモニター、ICT機器を活用した学習効果の高い授業を工夫する。

2. 円滑な学校運営と安全安心な学校づくり

- ① 募集広報活動の充実
中学生の減少や私立高校の環境の変化に関わらず、常に生徒が集まる魅力的な学校をめざす。学校力の向上と募集広報活動の強化を両輪とした学校経営を推進する。
- ② 内部進学を増大と進路指導の充実
生徒の多様な進路選択を尊重しつつ、学園全体の発展を見据えて、併設大学・短大への内部進学者の確保に全力を挙げて取り組む。内部進学率60%を目標にする。
- ③ 生活指導の強化と自尊感情の醸成
重要な教育方針として、全教職員の共通理解のもと全教職員による生活指導(服装指導・頭髪指導等を含む)の徹底を図る。特に、生徒の自尊感情を醸成する「成蹊 pride」の趣旨を生徒・教職員で共有し、その確立をめざす。
- ④ いじめ防止と建学の精神を踏まえた教育の推進
本校の「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、本校でのいじめ対策について全教職員で共通理解を図り、いじめのない学校をめざす。また、建学の精神を踏まえ、人間力教育を推進する。
- ⑤ 評価育成制度によるPDCAサイクルの推進と、FD研修の充実
校長の進める学校経営に個々の教職員が主体的に参画する。評価育成制度によるPDCAサイクルを通して、個々の教職員の資質と学校力の向上を図る。特に、FD研修の充実により、教職員の能力・指導力の向上を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析

○生徒・保護者の学校評価アンケート結果 [令和元年12月実施分](抜粋)

・令和元年の「学校全体」の評価は、生徒、保護者とも過去5年間で最高の評価であった。特に保護者の評価は、生徒の評価より全般にわたって高く、本校は、保護者によく信頼されていると判断できる。

【保護者の評価】

- ・「入学してよかった」という保護者の評価は約90%に達している。また、学園内に併設大学・短大があるというメリットへの保護者の評価は、それ以上に高い。
- ・この学校には、他校にない良い特色があるという回答は92%、伝統ある女子校として、また2学科5コースの総合タイプの私立女子高校としての評価は高い。
- ・生徒が学校生活を楽しく、充実していると感じているという回答は87%、学校行事が充実するとともに、活動に教育的な姿勢が感じられるという意見は85%。一方、「思わない」という意見は2%であった。多くの保護者に、本校の教育内容と取り組みは理解されていると判断できる。
- ・学びについては、補習や講習は総合的に整備されているという回答は80%、「思わない」の回答は4%である。また、全科目にわたり、学習指導は充実しているという回答は71%、「思わない」の回答は5%であった。他の質問項目での肯定意見は高水準の中にあつて、学習指導の項目については10ポイントほど低く、今後の課題となる。
- ・学校はグローバル時代に対応する国際理解教育を進めているという回答は88%で、「思わない」の回答は2%。本校の海外修学旅行、希望制の海外語学研修、台湾姉妹校との交流活動、英語授業での2人のネイティブスピーカーによる授業、無償の放課後ベルリッツ英会話講習などの活動が、保護者に評価されたと思われる。
- ・「入学してよかった」というコース別の満足度を比べると、幼児教育コースとスポーツコースが最も高い92%、次に美術科が91%、その後キャリア進学コース、キャリア特進コースの順であるが、いずれも90%近い回答でたいへん高い満足度になっている。
- ・コース別保護者の評価を見ると、キャリア進学コースでは、「併設大学・短大があり、総合学園の長所が活かされている」「他校にない良い特色がある」が高い評価で90%、「授業は分かりやすくするための工夫をしている」「学校通信や文書で学校の様子がよく伝わる」という回答は、肯定的回答が60%を超えているが、他の質問に比べて低い。
- ・幼児教育コースでは、「併設大学・短大があり、総合学園の長所が活かされている」が95%、「他校にない良い特色がある」が94%とたいへん高い。本校幼児教育コースから併設短大の幼児教育学科、併設大学の教育学部への内部進学の高評価されている。実際に幼児教育コースの85%の生徒が内部進学している。肯定的な回答が最も低

い質問は、「ICTを活用した取り組みを行っている」という項目で70%、否定的な回答が30%である。今後、この対応に向けた検討が必要である。

- ・スポーツコースでは、全体的に保護者の回答には肯定的な傾向が強い。特に、「他校にない良い特色がある」「女子校として挨拶の励行、品格を育てる指導をしている」「学校行事が充実している」「国際理解教育を進めている」が90%を上回っている。全ての項目で、肯定的な意見が75%以上になっている。
- ・キャリア特進コースでは、日常的にタブレットを使った学習や活動歴をICTで扱っているため、「ICTを活用した取り組み」「国際理解教育」が高い評価であるが、「学習指導と部活動の両立」等の教科学習への肯定的な回答が少ないことは課題である。
- ・美術科では、「他校にない良い特色がある」が94%、「この学校に入学してよかった」が91%と高い評価である。府内の私立高校で唯一の専門学科として「美術科」を設置する本校の特色が保護者に理解されている。一方、肯定的な回答が低いものでは、「学校通信や文書で学校の様子がよく伝わる」が唯一70%で、他は高い評価となっている。

【生徒の評価】

- ・生徒の高い評価は、「学校生活が充実している」が87%、「所属しているコースに満足している」が86%、「部活動が活発である」が84%、「将来を考える機会が多い」が83%、「文化祭などの学校行事が楽しく、充実している」が81%である。本校の特色である①多様なコースで学びの幅が広い。②自主性を育む、学校行事や部活動が活発。③充実したキャリア教育などが生徒に理解されていると判断できる。
- ・一方、目立って低い評価項目は、「生徒会活動に積極的に参加している」が全体平均で46%である。近年の課題となっている。
- ・コース別生徒の評価を見ると、キャリア進学コースでは、「学校生活が楽しく充実している」が84%で高く、次いで「部活動が活発である」が83%、「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」が80%となっている。一方低い回答は、「生徒会活動に参加している」が43%で最も低い。
- ・幼児教育コースでは、一般的に生徒の評価は高く、「コース行事(宿泊、ピアノ発表など)が充実している」が97%で、「思わない」がゼロである。次に「幼稚園・保育園体験学習は充実している」が97%、「併設大学・短大の進路指導が充実している」が92%となっている。肯定的な回答が低い項目としては59%の、「自分の考えをまとめ、発表する機会がよくある」である。今後の対策を検討したい。
- ・スポーツコースも、一般的に生徒の評価は高く、「学校行事は、みんなで楽しく行われるよう工夫している」が95%、「思わない」がゼロ。次に「部活動が活発」と「学校生活は楽しく充実している」が94%、「スケート・スキー教室などの実習授業に満足している」が91%、「学校生活で先生の指導がよくわかる」が90%である。一方、「生徒会活動に参加している」が56%で、最も低い肯定的な回答であった。スポーツコースの生徒は部活動が中心となり、生徒会活動への参加が時間的に困難な状況が推測できる。
- ・キャリア特進コースでは、「勉強合宿などのコース行事が充実している」が94%で、「思わない」がゼロ。次に、「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」が91%、「学校生活が楽しく、充実している」が89%と高い評価である。一方、最も低い回答は、「生徒会活動に参加している」が46%である。放課後に7限目の授業もあり、放課後の活動が制限されるためと思われる。
- ・美術科では、「美術の実習授業に満足している」が92%、「自分のコースに満足している」が91%、「美術棟を含む美術コースの施設に満足している」が90%で、本校の美術科は、全体的な満足度は極めて高い。一方、肯定的な回答が50%を唯一下回るのは、「生徒会活動に参加している」の項目だけである。

○アンケート結果の分析

- ・生徒及び保護者とも、5コースの教育内容及び本校の特色をよく理解していただいております、学びの満足度も高い。毎年、肯定意見は増加の傾向にある。学校の努力が一定の成果につながっていると判断できる。
- ・6年前から学校の特色としてキャリア教育と国際理解教育を柱とする「グローバルなキャリア教育」を推進してきたが、この間、生徒・保護者の理解は大きく増えている。
- ・ほとんどの質問項目で肯定意見が大きく上回っているが、改善の余地があるものとして、「学校からの通信や文書などで、学校の様子を家庭に伝えること」や更に「積極的な生徒会活動への参加」などがあげられる。

学校評価委員会からの意見

第1回 令和元年6月18日 会場 ホテルアウイーナ、学校評議員5名全員出席

【学校長から、学園発展の経緯と学校経営方針、本年度の教育目標について説明】

① 委員のQ1: 大阪成蹊女子高等学校の発展の要因について質問(志願者数の増加、退学者数の減少、教員の学校運営への参加意欲について)

A : 学園組織のトップである理事長のガバナンスが最大の要因である。教員の指導力の向上と意識改革に数年の努力を費やした。教員は少しずつであるが、着実に資質と指導力の向上を達成している。生徒とともに若手教員を育て、ミドルリーダーの育成が学校運営のキーとなる。現在は、全教職員がひとつの方向を向かうようになっている。

Q2: 現在、高い内部進学率であるが、昔は高大連携がうまくいかない時期もあったのではないかと。有効な対策は何であったか。

A : 過去に内部進学で大量に不合格が出た時期もあったが、今は学長・校長のリーダーシップのもと、大学・短大と高校との教員間の連携が円滑になっている。結果として、一人ひとりの生徒を大切にしたい進路指導と進路保障が可能になった。特に、大学・短大の教員が積極的に内部高大連携を進め、高校での連携授業の中で内部進学の促進に協力的になったことが、決定的な要因である。

② 委員の意見、提言

- ・学園全体で教学改革を進めているのが成功を収めた要因である。特に、大阪成蹊女子高等学校でも、学園と一体になって教育改革への施策、カリキュラムづくり、コース改編などを次から次へと打ち出しており、その姿勢が素晴らしい。たいへん評価できる。それが原動力になって、大きく学園全体の発展に寄与していると思われる。
- ・高校と大学・短大が同じ敷地内にあることは、他にないメリットである。同じ敷地内でなければ組織全体の改革は、簡単にできなかったと思う。今後もそのメリットを生かすべき。
- ・校長の定める教育目標が明確で、教職員全体研修で周知する体制がよい。大規模な100名を超える教職員集団が、研修等で方向や目標が定まることで、先が見えて自己の役割が明確になる。
- ・今後、中学生が減少する中、入学者数の減少は、学校経営において継続的な改革を進めることが困難となるのではないかと。今後も継続的な改革を進めるにあたり、入学者数を確保する募集対策が必要となる。

第2回 令和2年3月 新型コロナ対策で、郵送による意見交換と助言指導

○本年度教育方針について

- ・教員の指導力と学力の向上をめざしたアクティブラーニング研修の実施、ASPnet(ユネスコスクールの学校ネットワーク)への加盟、各種検定対策の強化、「ベルリッツ英語会話講習」の人数枠の拡大、いじめ防止の対策など、他校にみられない安定した学校経営は評価できる。
- ・学習指導要領の改訂にともなう教員のスキルアップ、eポートフォリオに関する研修など、新しい時代の要請に向けた取り組みは、今後も継続する必要がある。
- ・部活動で、安定した実績を求めるとすれば、優れた指導者は欠かせない。指導者の確保を学外から最優先で取り組むべきである。

○学校評価アンケートの分析について

- ・生徒及び保護者の学校評価アンケートは、生徒・保護者とも「学校生活は楽しく、充実している」と高い評価であるが、主に学校生活・学校行事に関するものが高い。一方、生徒の学力向上に関わる内容については、現状では肯定意見は多いものの、学校として更に上をめざした取り組みをめざす必要がある。
- ・全教室に設置したTVモニターを活用した授業が着実に増加しており、教員相互間の協力も進んでいる。更なるICT活用への取り組みの充実をめざすべきである。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の評価が年々高くなっているが、キャリア教育を進める観点では、よりいっそう充実すべきである。
- ・「生徒会活動に参加している」の回答が、他の質問事項に比べて、肯定的な回答率が低い。この対策が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

目標	本年度の教育目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の充実と学力向上	① アクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた学力向上すべての科目でALを導入	1.グループ活動での活用:グループ発表、討議等、探求活動などでALを適切な授業場面で実施する。 2.課題解決学習 :一方的な講義形態に終わらず、主体的に生徒同士が協力しながら課題・問題を解決する学習方法を積極的に取り入れる。	AL実施授業数	<ul style="list-style-type: none"> 座学系科目では約 50%の教員がAL、特にグループ学習等を導入した。 実技系科目は、ほぼ 100%を達成した。 キャリア系・グローバル系科目では、全科目で課題探求型授業を 100%実施した。
	② 国数英の3教科での学びの充実	<p>学びの充実プロジェクトチームを設置し、中長期の教学改革に向け、本校での3年間の学びの目標を教科別に再設定し、指導力を高める学内研究に取り組む。また他校の先進事例の研究も行う。</p> <p>ア.国語:</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニケーション力、論理的思考力、表現力の向上 読書感想文コンクールなどを通じた文章読解力や記述論述の力の向上。コンクールに全生徒参加をめざす。 漢字検定の成果を高める。全生徒の目標とする合格率を昨年比の 1.3 倍に向上させる。 <p>イ.数学:</p> <ol style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能の習得を基にして、多面的なものをみる力や論理的に考える力を高める。 普通の授業での小テスト、家庭学習課題を通じて計算力の向上をめざす。100%の小テスト実施をめざす。 数学的活動を通じた発想力、想像力の育成を試みる。 <p>ウ.英語:</p> <ol style="list-style-type: none"> 第一学年では、ベルリッツによる放課後の英会話講習を充実し、英会話の楽しさを理解させる。また、中学校での英語学習を定着させる。 第二学年では、ネイティブスピーカーの教員を活用した実用的な英会話力の向上を図る。また、GTEC学習の強化を図るとともに英語検定で成績の向上を図る。 第三学年では、個々の進路に必要な英会話力や4技能の英語力を育成する。また、英語検定の合格率の向上をめざす(昨年比の 2 割増)。また、TOEIC 検定での 500 点以上の生徒育成に努める。 	<p>ア.国語:</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科別の授業評価アンケート結果 読書感想文等のコンクール成果 漢字検定の合格率 <p>イ.数学:</p> <ol style="list-style-type: none"> 3.教科別の授業評価アンケート結果 通常授業での小テストの実施数 <p>ウ.英語:</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習の LINES ドリル成績とベルリッツ講習の参加数 ネイティブスピーカー教員の授業状況 GTEC成績、TOEIC成績 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価アンケートでは、国語科は全教科中で平均以上の高い評価であった。 全員が読書感想文コンクールに参加できた。学外の「おーいお茶」主催の俳句コンクールでは 5 名の生徒が受賞。 本年度の漢字検定合格率は、5 年間で最高。昨年比の 1.46 倍の生徒が目標検定に合格。 3.授業評価アンケートでは、数学科は平均に及ばなかったが、キャリア進学コース看護栄養レーンなど理数系レーンでは、外部模試の結果、数学の学習成果は向上した。 2.数学教員の 100%が日常の小テストの実施、家庭学習での指導を行った。 1.入学前家庭学習の LINES ドリルは全員参加。ベルリッツ講習には 1 学期は平均 90%の生徒、希望制になる 2 学期以降は 46%(2 学期)から 35%(3 学期)の生徒が参加した。 2.教育課程上配置できなかった 1 クラスを除く 14 クラスの全てにネイティブスピーカー教員の授業を実施。海外修学旅行も実施できた。 3.TOEICでの検定達成は目標値に届かなかったが、GTEC の成績は昨年より向上し、成績として平均で約 20%のスコアが伸びた。 4.関東中心に先進的な私立 3 校へ学校視察を実施。今後の授業方法の参考となった。
	③ 評価育成制度を通じた教科指導の充実と、研究授業の実施	<ol style="list-style-type: none"> 評価育成での教科指導力の向上 日常的な教科指導の振り返りと授業点検を進め、生徒による授業アンケートや評価育成制度でのPDCAサイクルを活用しながら、教科指導力の向上をめざす。 研究授業の実施 研究授業は各教科でベテランと新任とで実施し、教科指導力の向上を図る。更に管理職による授業見学も随時実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 評価育成制度の実施状況 授業アンケートの活用の有無 公開授業への参加者数 研究授業の実施回数と成果 	<ol style="list-style-type: none"> 全教員に評価育成制度を実施できた。管理職による若手教員の授業視察は、全員に行い、教科指導のスキルアップに取り組んだ。 年度末の開示面談で個々の教員に対して、授業評価アンケート結果を元に指導を実施。 年 2 回の公開授業週間では前年比 20%増の延べ 158 人の教員が参加、保護者は 30 名。 研究授業では、校長が指名したベテランを中心に全ての教科で研究授業を実施した。
	④ 各種検定の合格をめざす実学教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 検定合格や資格取得に対応する教科の取組みを計画的に進める。特に、漢字検定・GTEC(英語検定)・秘書検定、その他検定の合格率や到達度の向上(昨年比 20%増)を該当教科の全員でめざす。 	各種検定の合格率	<ul style="list-style-type: none"> 全員受験の漢字検定では、各生徒の目標級の合格率は、過去最高の 1.46 倍。 全員受験の秘書検定では三級合格率は過去最高の 40%(昨年 15.5%)で 2.6 倍を達成した。 他のGTEC、世界遺産検定、家庭科検定等も対策に取組み、例年どおりの成果をあげた。

2 全教職員が一体となった学校運営	① 生徒募集力の強化とコースの特色の鮮明化	<p>1.募集広報企画室の活動に対する全教職員の協力体制を強化し、オープンスクール(OS)は全教職員体制で臨む。令和2年度は、音楽コースを開設し、募集定員を400名に増加する。志願者1,000名以上を目標とする。</p> <p>2.コース毎に生徒ニーズと学校教育方針を反映した特色づくりを更に強化する。</p> <p>【普通科】 ア.キャリア進学コース コース内レーンと併設大学・短大の学部学科との接続を鮮明化し、特色を中学生に伝える広報を充実する。 令和3年度にレーンを改編する「アドバンス英語」レーンの学びと特色を明確にする。</p> <p>イ.幼児教育コース 保育園・幼稚園での体験実習等を教育目標の柱とし、日常の学習の定着を全教員でめざす。併設大学短大の教育学部、幼児教育学科との接続強化を維持する。</p> <p>ウ.スポーツコース 併設大学経営学部やびわこ成蹊スポーツ大学との密接な接続を維持し、スポーツ系の学びを充実させる。</p> <p>エ.キャリア特進コース 生徒の自己研鑽力の育成を図り、自ら難関大学に進学できる学力伸長の取組みを強化する。教育特進レーンでは、併設大教育学部への内部進学をめざす。</p> <p>オ.音楽コース 専攻として、ピアノ専攻、声楽専攻、吹奏楽・管弦打専攻、ポピュラー・ミュージカル専攻の4専攻をもつコースとして、円滑な立ち上げと生徒募集を図る。大阪音楽大学との連携をもとに、音楽に興味をもつ生徒を30名以上集める。</p> <p>【美術科 アート・イラスト・アニメーションコース】 学内外の各種コンペでの上位入賞を今後も維持し、その成果を広く発信し、本学科の充実をアピールする。併設大学芸術学部への内部進学を更に強化する。</p>	<p>1.志願者数</p> <p>2.各コース別志願者数と入学者数</p>	<p>1 本年度のべ来場者数は、6,123名で、昨年比13%増であった。本年度幼児教育フェスタを新規に実施し、併設短大の幼児教育学科、こみち幼稚園との連携のもと、中学生を対象とした体験学習は、高い評価で、募集につながった。</p> <p>2.各コースの特色の鮮明化に努め、キャリア特進コースを除いて、前年度より多くの入学者が集まった。また、新設の音楽コースには、計画を大きく上回る生徒の志願と入学があった。</p> <p>各学科・コース別の志願者・入学者</p> <p>普通科 ア.キャリア進学コース 志願者 385名 入学者 160名 イ.幼児教育コース 志願者 176名 入学者 98名 ウ.スポーツコース 志願者 93名 入学者 57名 エ.キャリア特進コース 志願者 76名 入学者 16名 オ.音楽コース 志願者 93名 入学者 53名 美術科 アート・イラスト・アニメーションコース 志願者 199名 入学者 87名</p> <p>合計 志願者 1,022名 入学者 471名であった。</p>
	② 高大の教員間連携を強化し、内部進学 of 拡大と進路指導を充実	<p>1.内部進学率の拡大 併設大学・短大への内部進学者の拡大に向けて、3年生担任団と進路指導部との連携強化を更に進め、内部進学率60%の目標達成に向けて最大の努力を行う。</p> <p>2.学園内高大連携の拡大 併設大学・短大との学園内高大連携を更に強化し、連携授業の充実を努める。連携授業100コマ以上をめざす。</p> <p>3.併設生対象オープンキャンパス(OC)の充実 併設2年生、3年生対象OCの充実を図る。</p> <p>4.学習活動の継続 内部進学が内定後、進学後に必要な学力向上に向けた学習を継続させる。外部進学者には、一般入試までの長期間の学習意欲の維持を図る。</p>	<p>1.内部進学率</p> <p>2.学園内高大連携授業の実施数</p> <p>3.併設校対象OCの状況</p>	<p>1.本年度の内部進学率は全体として52.2%、前年(50%)より2.2%増であった。大学・短大進学希望者のうち約7割が内部進学した。 内訳:併設大阪成蹊大学93名、びわこ成蹊スポーツ大学9名、大阪成蹊短期大学164名。 外部進学では、大学102名、短大22名。</p> <p>2.本年度、学園内連携授業は時間割に組込んでいるキャリア進学コースで73コマ、他のコースでは美術科を中心に47コマ実施し、例年通りの計120コマで連携授業を実施した。</p> <p>3.本年度、併設対象OCでは保護者の参加も可能とし、毎回100名程度の保護者が参加。併せて学園理事長の講演も実施できた。</p>
3 生活指導の充実	建学の精神を踏まえた女子教育の充実と、学園のブランド力向上運動と連携した生徒指導の充実	<p>1.女子教育の充実 建学の精神を踏まえた伝統ある本校の女子教育に必要な生活指導を徹底する。頭髪指導・服装指導など生活指導に関する教員向け指針を全教職員で共通理解し、全教職員による生活指導を徹底する。</p> <p>2.学園のブランド力向上運動 学園の運動と連携して、日々の挨拶運動等を更に進める。生徒会への働きかけも強める。</p> <p>3.正しいSNSの使い方 近年のスマホ普及に伴い、生徒のSNSの正しい利用に向けて生徒への指導力を強化する。教職員の研修を図り、ネット上でのトラブルを最小限に減らす取組みを推進する。</p>	<p>1.学校評議員の評価、生徒指導件数の変化</p> <p>2.朝の挨拶運動の状況</p> <p>3.スマホ関連の懲戒件数</p>	<p>1.学校評議員からの本校生徒についての評価は大変高い。まじめで、おとなしい生徒が大阪成蹊女子高校の生徒の特色となっていると評価された。</p> <p>2.挨拶運動では、毎朝、生活指導部と担任を持たない教員が登校指導を実施し、一定の効果があつた。月毎の頭髪・服装指導も実施した。</p> <p>3.入学時での生徒・保護者向けSNS研修をはじめとして、生徒や教員への研修も行った。スマホ事例を含む懲戒件数は、大きく減少し、昨年比の20%減であった。大変落ち着いた学校となっている。</p>
	4 いじめ防止等の対策	いじめ防止の取り組みと、建学の精神に沿った豊かな人権感覚の育成	<p>1.いじめ防止対策 学校制定の「学校いじめ防止基本方針」を全教職員が十分に理解し、建学の精神を踏まえつつ、生徒が互いに他者を理解し、尊重し合える豊かな人権感覚をあらゆる教育活動の中で育む。</p> <p>2.人権ホームルーム 「年間計画」に基づき生徒いじめアンケートを実施し、いじめ等の未然防止に努め、安全で安心な学校づくりをめざす。また、いじめに対応するガイドラインを遵守し、早期対応と管理職報告を密に行うなど、適切な対応を行う。</p>	<p>1.いじめ件数</p> <p>2.ホームルームでの人権学習実施有無</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 生徒会活動・部活動の活性化</p>	<p>生徒の自主性を育むことをねらいとして、生徒会活動および部活動を活性化</p>	<p>1.生徒会活動の活性化 生徒会としての日常的な活動を積極的にアピールし、文化祭、体育祭、予餞会の各企画委員の活動支援体制の拡充を図る。学年を超えた生徒同士の交流を深め、人間関係を円滑に構築できる力を育てる。</p> <p>2.部活動の活性化 新入生に運動部、文化部への加入を積極的に推奨し、部活動・同好会の加入率を高め、部活動の活性化を図る。</p> <p>3.生徒の達成感を高める活動の推奨 運動部以外の文化系部活のコンテストや発表会等の成績発表を充実させ、ボランティア活動を含めて、積極的に生徒の達成感・成就感を育み、生徒の内面を鍛える取り組みを進める。</p>	<p>1.生徒会活動参加者数の増減</p> <p>2.部活動加入率</p> <p>3.コンテスト等の表彰歴、各種ボランティア活動状況</p>	<p>1.本年度の生徒会役員、体育祭・文化祭・予餞会の各企画委員も参加生徒数はすべて充足し、予定どおりに学校行事が成功した。生徒会役員は約20名、各学校行事の企画委員は50名程度であった。</p> <p>2.新入生の部活動加入率は、ほぼ例年通りの50%程度であった。今後も、部活動への加入に向けて更なる指導が必要である。</p> <p>3.運動系は例年多数の表彰を受けているが、本年は音楽系(コーラス部、吹奏楽部等)で多数の受賞があった。コーラス部はフェスティバルホールでのオリンピックコンサートへの参加も果たした。また、美術系でのコンペの表彰等は昨年以上に増えた。今、校内の廊下は、美術の受賞作品であふれている。</p>
--	---	--	--	---

4 今後の改善方策

<p>1 学習指導の更なる充実</p> <p>新入生向けオンライン型自宅学習システムの LINES ドリルは、今回の新型コロナ対応での自宅遠隔学習として効果的であり、今後も継続する必要がある。本校での ICT 教育・遠隔授業の拡充に向けて、ドリルの有効活用に加え、新規学習システムの導入が必要である。</p> <p>これまでの取り組みで、アクティブラーニングの導入段階は一定目標を達成した。今後は、更に研究授業等も重ねて、生徒の自主的な学びの充実に向けて、よりいっそう指導方法の改善を重ね、学習指導力の強化を図りたい。</p> <p>2 グローバル教育・英語教育の更なる充実</p> <p>本年度12月に、海外でのキャリア研修等もねらいとする海外修学旅行を予定どおり実施し、アメリカのロスアンゼルス、ヨーロッパのプラハ・アテネ・ヘルシンキ、パラオ諸島で計画どおりに実施できた。次年度以降、新型コロナウイルスの感染防止対応を図った取り組み実施が可能か検討を要する。</p> <p>また、正式なユネスコスクールへの加盟により、SDGs の取り組みを教育課程の中に一層発展させる必要がある。</p> <p>1年生のベルリッツ英会話講習、2年次以降のネイティブスピーカーを使った英会話学習の充実など、使える英語力を今後更に進める必要がある。</p> <p>3 コースの拡大と看護医療進学コースの設置準備など</p> <p>本校の最大の特色である多様なコース配置と、特色あるコースでの教育活動を更に充実させ、中学生へのアピールを図る。令和2年度1期生を迎える音楽コースの生徒への学習保障を図り、大阪音楽大学との連携を円滑に進める。</p> <p>更に、令和3年度開設する看護医療進学コースについて、開設に向けた準備を着実に進めるなど、本学の新コースの開設・充実をめざす。本年度も全教職員を対象とした募集対策の研修を強化し、学校としての募集力を高め、500名の生徒募集に向けて最善を尽くしたい。</p>
